

キャンペーン実施などです。教場事業としては、教場振興のための制作物の作成で、毎年配布される無料体験テキスト、封筒セツト、そろばんカレンダーなど、私達会員は色々な配布物を貰っています。家の隅に置き去りにされる事もありません。役員の先生が、毎年、様々な準備を苦勞して作成してくださっています。もっと活用しなくては、申し訳なく思いました。



認定を受け、公益法人になる事ができる。「公益目的事業の定義」としては不特定多数の者の利益の増進に寄与するものを言う。つまり剰余金を余り残してはいけないうし、公益事業五〇%以上の維持など、支部の交付金も使途明細が明確

を握っています。間もなく新公益法人に申請する所まで来ているそうです。この件については、三日間の講習会の中で、各先生方が、常に、この話題に振れ、新生全珠連の為に総力を挙げておられる事、強く感じました。

次は研教委の澤田悦子先生です。研修学教とは、研修事業と学校教育事業の事で、研究誌「珠算春秋」の編集発行・人材育成講習会の開催「小学校のそろばん学習」の編集発行「たのしいそろばん」の発行など、まだまだ他にもたくさんあります。澤田先生は、珠算春秋を是非読んで知識を重ねてほしいとおっしゃり、今まで真面目に読まなかった自分に反省。今後この本を頂くたび、澤田先生のお顔を思い出し、教室の繁栄に繋がりたいと思います。

二日目に入り、第三講座は、生駒利夫先生の「新公益制度」です。公益法人の設立条件として①公益に関する事業を行うこと②営利を目的にしないこと③主務官庁の許可を得ること。全珠連は、現在「特別民法法人」という状態で特別民法法人は、行政庁の

認定を受け、公益法人になる事ができる。「公益目的事業の定義」としては不特定多数の者の利益の増進に寄与するものを言う。つまり剰余金を余り残してはいけないうし、公益事業五〇%以上の維持など、支部の交付金も使途明細が明確

ら楽しく指導する方法。さらに、そろばんの効力は、後から付いてくるもの、てきぱきやらせて短時間で出来たら誉めて、今日は帰らせてあげよう。教室に入って来たたら笑顔で向かえて、宝が来たと思いなさい。この講座の後とても新鮮な気持ちになり、このような広い気持ちで生徒の心の中を理解できる指導者でありたいと思いました。

第六講座は、谷賢治先生の「算法演習」です。二日目の十六時からで、少し疲れて来ましたが、谷先生の大きな声と話術で、そんな気分も吹っ飛びました。乗法、除法共、様々な算法があり、そろばんの奥の深さに驚き、この様な勉強会を支部や地区に帰って、少人数でやれたら、分かり易いだろうと思いましたが、帰除法も習いましたが、すごく難しく、理解の遅い生徒の事、強く言えない立場になりました。

十八時からは、正副理事長と語ろうというパネル討議があり、班ごとの質問で、公益法人についての質問が多くみられ関心の高さを感じました。その後ミニ発表があり、二日目の晩という事もあり、かなり打ち解けた会となりました。

最終日の第七講座は、學術顧問の上垣



最後に、この三日間貴重な体験をさせて頂いた事、私の人生のページがとてな輝かしいものとなりました。大変有難うございました。

渉先生の「算数とそろばん」でした。これが最後の講座なので、しっかりと聞こうと気合いが入りました。

まず数の誕生について。数は、数字と違い記録されなくてもあったとされ物の集まりの比較から数は、生まれた。これを「一対一対応」と言い数を表す第一歩となっている。そろばんの特徴の一つとして、最大公約数を求めるのに便利で「交互差し引き方」と言われ、古代ギリシャからあり、日本では「建部賢弘算法」と言われる。そしてそろばんは、「教具そろばん」という位置づけがされるといふ事です。そろばんは、歴史と伝統ある教具です。次世代に伝えていく義務があると感じました。

閉講式では、一人一人履修証書を頂き、感動しました。

岡久泰大先生の最後の言葉がとても印象的で「皆さんに種を蒔いた。」とおっしゃり、蒔いた芽を出す。訳です。全珠連という組織の一会員としての重みを感じました。